



のびのび若っ子

変わらないもの

校長 中島 早苗

2021年（令和3年）、新しい年の始まりです。

年末年始の過ごし方は大きく変わりましたが、新年の空気までもが新鮮に感じられる感覚は同じものです。自宅で新春の空を眺めながら今年が子ども達にとって、皆様にとって素晴らしい年であるよう、願わずにはいられませんでした。本年も、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきますよう、心よりよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年6月以降、大きく変わった姿の一つに、児童が職員室にタブレットを頻繁に取りに来る姿があげられます。1年生から6年生まで学年は問いません。現在、学校にタブレットは40台ありますが、授業にとどまらず、クラブ、委員会での利用が昨年度に比較して各段に多くなり、教員が利用の調整をしています。分散登校のときには子ども達をつなぐ手段として、教員が活用をし、次に他学年との交流や集会などの手段として子ども自身が使うようになりました。また、学習での制限を解消するための工夫の手段として使うこともあります。低学年では、鍵盤ハーモニカの代わりに鍵盤のアプリを使用しました。学年に応じて使用する鍵盤の数を変更でき、なかなか便利なようで、ふしづくりにも活用しています。高学年の家庭科の授業では、ミシンの学習があります。ミシンの共有を行わないために、1回の授業時間では、学級の半分の子供達が固定してミシンを使うようにしました。ミシンを使わない時間には、手縫いの作業をしたり、図工の授業で、アプリを使用してアニメーション動画作成を行ったりし、この組み合わせで、学習を進めていきました。グループでミシン縫いに取り組むと、互いに教え合うよさがありますが、今回は個々の作業になります。そのため教員は、ミシンの使い方の動画を作成し、子ども達が必要なおきに、繰り返し見ることができるよう工夫をしました。タブレットを手元に置き、一時停止をして確認したり、見たいところを拡大したりと個々のペースに応じて使用する姿が見られました。その他の学習でも、このような使い方があったのかと、子どもが学習に熱中している姿を見て驚くこともしばしばあります。また、自分達で集めた素材を動画にして、伝える発信を試みている学年もあります。

横浜市におけるGIGAスクール構想では、「個別最適な学び」と「社会とつながる協働的な学び」の2つの学びを目指しています。その取組の一つとして、一人1台端末の環境実現があり、年度末までにタブレット端末が納入されます。今後は、一人1台端末環境の中での授業の方法の在り方を私達、教職員も探っていきます。しかし、授業の根底には深い児童理解が必要であることに変わりはありません。本物に触れることの大切さに変わりもありません。変わるものへの研鑽を積むとともに、変わらないものの価値を心に留め、目的を見極め、「チーム若葉台」として、教職員一同で努めてまいります。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切にすることを育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』

保護者の方、地域の方へ本校の教育活動をさらに知っていただくために学校ホームページの更新を行っています。ご覧になっていただくと幸いです。